

# 放射性物質の調査結果をお知らせします

## 水道水は安全です

水道水中から、一時期微量の放射性物質が検出されましたが暫定規制値未満であり、また4月25日以降は検出されていませんので、**安心して飲用等にご利用ください。**  
 今後も不測の事態に備えるとともに、状況に応じて検査や除去対策を継続していきます。

東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴い放出された放射性物質の調査結果や水道局の対応をお知らせします。(10月26日現在)

施設名 (原水取水地点)	最高値(採水日)		検査頻度	水道水中の放射性物質の除去対策	
	放射性ヨウ素	放射性セシウム		全浄水場での除去対策	
青山浄水場 (信濃川下流)	7.8(3月23日) 4月25日以降検出されず	検出されず	3月18日以降現在も毎日	放射性セシウム対策	凝集処理の徹底 (3月20日以降継続中) ※ろ過水濁度を0.04度以下で管理しています。
満願寺浄水場 (阿賀野川下流)	39(3月20日) 4月2日以降検出されず	検出されず	3月20日から4月20日まで毎日 4月21日以降現在も週2回程度	放射性ヨウ素対策	粉末活性炭注入 (3月20日から 4月中・下旬まで実施)
東港浄水場 (阿賀野川中流)	79(3月20日) 4月1日以降検出されず	検出されず	3月20日から4月20日まで毎日 4月21日以降現在も週2回程度		
食品衛生法に基づく暫定規制値 (飲料水)	300 【乳児 100】	200			

※検査結果の詳細は新潟県ホームページ(<http://www.pref.niigata.lg.jp/>)参照。

## 浄水汚泥について

浄水場で発生する汚泥から、放射性物質が検出されています。

浄水場の汚泥とは、水道水をつくる過程で発生するもので、水源となる川の水から取り除いた「にごり成分」を乾燥させたものです。発生した汚泥を機械により脱水したものを「機械脱水汚泥」、天日により自然乾燥したものを「天日乾燥床汚泥」と呼んでいます。

これまでの放射性物質調査結果は、次のとおりです。

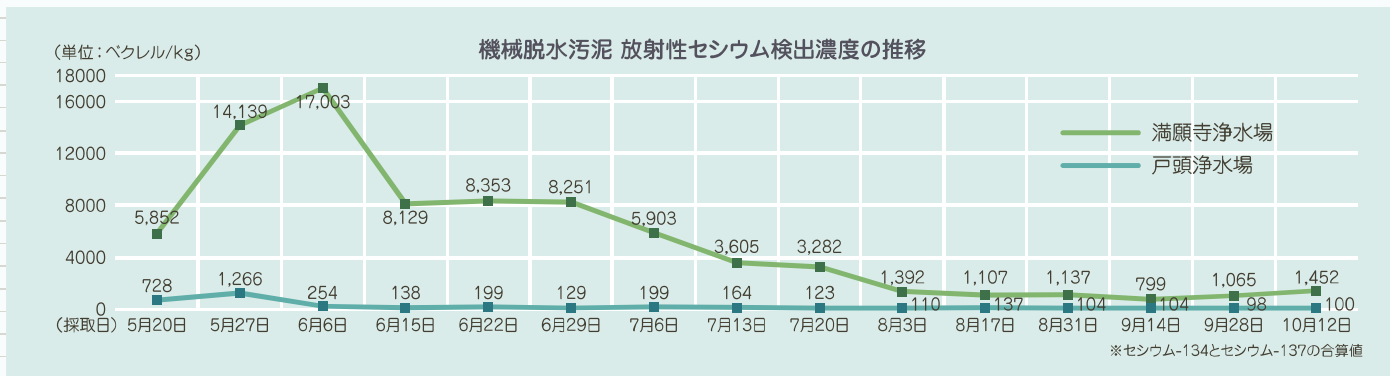
放射性物質を含む汚泥は、大型土のうに詰め、周囲に影響を及ぼさないよう浄水場の敷地境界から一定の距離をとって、**浄水場構内で安全に一時保管しています。**また、その中でも汚染濃度が高いものは、あらたに浄水場構内に格納倉庫を建設し、厳重に管理を行います。

汚泥を一時保管している浄水場では**定期的に放射線量を測定し、安全を確認しています。**

水道局は、今後も継続して汚泥の放射性物質調査を実施し、その結果をホームページや報道機関への情報提供などにより公表します。

### ●機械脱水汚泥

一時期高い濃度の放射性セシウムが検出されましたが、その後濃度は大幅に低下しています。



### ●天日乾燥床汚泥

阿賀野川浄水場で処理した汚泥から、一時期高い濃度の放射性セシウムが検出されましたが、その後濃度は大幅に低下しています。

施設名	天日乾燥床汚泥 放射性セシウム検出濃度						単位: ベクレル/kg
	青山浄水場	信濃川浄水場	戸頭浄水場		巻浄水場	阿賀野川浄水場	
浄水処理期間	昨年12月~6月	昨年12月~7月	4月~7月	7月~8月	3月~7月	昨年12月~5月	6月~7月
検出濃度	2,310~3,680	77~3,810	2,284	173	999~1,372	2,890~35,400	950

※セシウム-134とセシウム-137の合算値

### ●放射線量

水道局が管理する浄水場の敷地境界で放射線量の測定を行った結果です。

**測定結果はすべて新潟県が公表している通常の測定範囲内(0.016~0.16マイクロシーベルト/時)でした。**

施設名	浄水場敷地境界における放射線量										単位: マイクロシーベルト/時	
	青山浄水場		信濃川浄水場		戸頭浄水場		巻浄水場	阿賀野川浄水場		満願寺浄水場		
測定日	10月6日	10月13日	10月6日	10月13日	10月5日	10月12日	10月6日	10月13日	10月5日	10月12日	10月5日	10月12日
測定結果 (地上1m)	0.071~ 0.086	0.067~ 0.083	0.069~ 0.082	0.073~ 0.081	0.069~ 0.078	0.063~ 0.083	0.057	0.059~ 0.065	0.069~ 0.086	0.067~ 0.083	0.069~ 0.084	0.073~ 0.088

※数値は最小値と最大値

●お問い合わせは ☎ 0120-411-002 ●水道水の水質については 水道局水質課へ  
 ●浄水汚泥については 水道局浄水課へ